

令和元年度 学校評価総括表

阿波市立伊沢小学校

1 学校教育目標 「知・徳・体の調和を図り、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」 ～「いさわ」のよさを生かした教育の創造～

2 本年度の重点目標

(1)確かな学力の向上 (2)豊かな心の育成 (3)健やかな身体の育成 (4)「開かれた学校」づくり

3 本年度の「育てたい子どもの姿」

(1)学ぶ楽しさを感じる子ども (2)明るくあいさつする子ども (3)笑顔でそじじに取り組み子ども (4)人を元気づける言葉かけをする子ども

4 総括表

領域	評価項目	評価の観点	自己評価		次年度への改善点等	学校関係者評価	
			考察(成果と課題)	評価			
学校経営	経営方針	学校経営方針の周知	年度始めに、学校長から出された経営方針を職員で周知するとともに、学校だよりや学年通信で取組を知らせるよう努めた。保護者評価も85%以上と高いので、今後も引き続き分かりやすく伝えるよう心がけていく。	A	PTA総会や懇談会等の機会に説明するだけでなく、学校だよりやホームページを活用し、周知を図る。 学年だよりやホームページ更新をこまめに行うことにより児童の活動の様子を伝える回数を増やす。 児童の実態把握に努め、職員間で常に共通理解を図りながら、組織全体で児童支援に取り組む。 学力向上実行プランの課題を解消するために、職員研修を行い資質向上を目指す。 安全点検を実施し、危険な箇所の早期改善を図る。 行事精選等校内業務の見直しを図り、職員の勤務時間の短縮につなげる。	A	B
	開かれた学校	保護者・地域への情報発信・連携	学年・学校の取組や連絡事項については、懇談や通信、ホームページ・保護者向けメールを活用してこまめに伝えるようにした。自己評価は87%であるが、保護者評価は83%となっているので、よく分かる情報発信となるよう工夫していきたい。連携に関しては、総合的な学習の時間など地域の協力を得て充実した活動を実施することができた。	B		B	
	学級経営	一人一人を大切にす学級経営の実践	「学校に行くのは楽しい」と答えた児童は86%であるが、「子ども一人一人を大切に育ててくれている」と答えた保護者は83%であった。さらに職員間で連携をとりつつ児童が大切にされていると感じるよう努めていく必要がある。	A		B	
	教職員の資質向上	授業力・組織力の向上	「授業がよく分かる」の児童評価は85%、保護者評価は84%となっている。新学習指導要領実施にあたり、各教科等のねらいをしっかりと把握し、児童の確かな学力を向上させることができるよう職員全体の資質を上げていく必要がある。	B		B	
	環境整備	安全で美しい学校環境の整備	環境に関する保護者評価は85%、職員評価は81%であった。施設・設備については、定期的に安全点検を実施し修繕等を実施している。しかし、かなり古くなっているものが多いのが現状であるため、点検を実施し、安全に配慮していく。	B		A	
	業務改善	働き方改革の推進	「働き方改革」への理解・協力についての保護者評価は87%と高いが、実践すると答えた職員は71%と低い現状である。校務も複雑化するなど課題は多いが、推進に向けた対応が必要だと思われる。	B		A	
教育活動	学力向上	基礎基本の定着学習意欲	「授業中先生や友達の話聞いてる」と答えた児童は88%であるが、「分からないことは質問している」には78%となっている。指導する際には、児童それぞれの様子を確認しながら学習内容の定着を図ることが大切だと考えられる。	B	家庭学習の習慣がついている児童は94%と高いので、学習内容が定着するよう課題を工夫する。 道徳・人権教育を充実させるとともに、いじめ防止子ども委員会の活動を推進し、職員・保護者・児童全体でいじめのない学校づくりに努める。 きまりを遵守することの意義を理解できるようにし、ポジティブな行動支援を進めていく。	B	B
	心の教育(人権教育)	人権尊重精神の育成いじめ防止	「友達に会うのは楽しい」97%、「友達を大切にしている」92%と児童評価は高くなっている。「仲良く助け合って活動している」に対する職員評価は90%、保護者評価は84%であった。児童の様子やアンケート等から実態を把握し、職員間で共通理解を図りながら児童の思いに寄り添いながら人権教育を充実したものにしていく。	A		A	
	生徒指導	望ましい生活習慣の育成	「きまりを守っている」についての児童評価は89%、保護者評価76%である。清掃など周りのためになる活動に主体的に取り組む態度の育成を図ってきたい。また、スマートフォンの所有率や利用時間も高くなっていることから、ネットモラルについて正しい知識を身につけるようにしていくことも大切であると思われる。	B		B	

働	健康・体力づくり	基本的な生活習慣の確立	児童の生活習慣アンケートによると、体育の時間以外にも外遊びをしている児童が多く、体力向上につながっていると思われる。一方、スマホ・タブレットを一日に1時間以上使用している児童は31%となっており、十分に睡眠時間を確保できていない児童がいることが課題である。	B	マラソンやなわとびカードなどを工夫し、児童の運動意欲を高める。また、懇談などの機会に望ましい生活習慣について保護者に伝えていく。	B
	家庭・地域教育	家庭・地域教育力の向上	「学校教育活動やPTA活動に参加・協力してるか」に対して保護者評価は77%であるが、職員評価は95%と高くなっている。学校行事への参加率は高いとともに、奉仕作業等にも積極的に協力いただいている。地域のパトロール隊も見回り等を通して児童の安全を見守ってくださり教育力の高さが感じられている。	B	保護者や地域と課題を共有する場を設定し、協力しながら課題解決に取り組んでいく。	B

5 学校評議員からのご意見

- ・限られた学習時間の中に地域関係者から学ぶ機会を設けてるというのは大切なことだと思う。
- ・子どもたちは恵まれた環境の中でのびのびと生活できている。
- ・集団生活が苦手だと感じる子どもが増えてきている。
- ・職員が多く、人的環境にも恵まれていると思う。
- ・廊下にたくさんの児童作品が掲示されていて、学習への意欲づけになっていると思う。
- ・学習発表会には、どの子も生き生きとした表情で取り組んでいた。また、他学年の発表を見たり出番を待ったりする態度も落ち着いていた。
- ・学習発表会には多くの参観者があり、学校行事に対する関心の強さを伺うことができた。
- ・自分の意見が言える授業の工夫が必要である。